

平成 26 年度第 1 回 海岸工学委員会幹事会議事録

開催日時：平成 26 年 9 月 29 日(月) 14:00～18:20

開催場所：土木学会 2 階 A 会議室（東京都新宿区四谷 1 丁目 外濠公園内）

出席者：以下の 26 名の委員長，副委員長，幹事長，小委員長，主査，副小委員長，委員兼幹事，幹事
佐藤委員長，青木副委員長，佐々木幹事長

岡安，柿沼，重松，森（テレビ会議），渡部の各小委員長，北野主査，川崎，田島，富田，中山の各副小委員長，

小笠原，栗山，後藤，野口（諏訪委員兼幹事の代理），高木，武若，木原（松山委員兼幹事の代理），
陸田，森屋，八木，山城，横木の各委員兼幹事，下園幹事

資料：

- ・平成 26 年度第 1 回海岸工学委員会幹事会の議事（資料 1）
- ・「東日本大震災後における津波対策に関する現状認識と今後の課題」の提言について（資料 2）
- ・パワーポイント資料（資料 3）

■審議・報告事項

1. 前回議事録の確認

WEB に公開済み

2. 報告事項（佐々木幹事長）

(1) APAC2015 は 2015 年 9 月 7 日～10 日にインドのチェンナイで開催される（佐々木幹事長）。

(2) 災害調査 WG 設置（武若委員兼幹事 佐々木幹事長代理）

学会として会員の災害調査活動を把握できる体制を構築するための WG が設置された。

(3) 100 周年事業（佐藤委員長）

津波防災フォーラムが 2014 年 11 月 2 日に伊豆市立土肥小学校体育館で開催される。

3. 海岸工学論文集第 61 巻発刊準備状況について（岡安小委員長，田島副小委員長，佐々木幹事長）

(1) 最終審査報告

・第 1 段審査：登録論文数 382 編，審査通過論文数 305 編（+企画セッション 8）

・第 2 段審査：通過論文数 300 編（辞退 5 編）

・第 2 段審査以降（不採択 1 編，辞退 0 編），計 299 編が採択された。

(2) JSTAGE の作業について

・今年度は昨年度廃止された B 判定（条件付き採択）を復活させた。

・B 判定の再査読時の修正事項への対応は著者校正時を想定していたが，修正依頼が多い場合等に複数の著者に混乱が生じた。また，C 判定論文の修正が不十分な 3 編程度の論文について，システム上での対応ができないため，例外的措置としてメールによる個別対応をとった。

- (3) 組版，冊子体の存廃等の将来検討
 - ・ 海岸工学論文集将来検討 WG で議論
- (4) 土木学会論文集 B-2（通常号）への投稿促進
 - ・ 特集号（海岸工学論文集）の不採択原稿の投稿を呼びかけ（個別の対応はしていない）。
- (5) 英文論文（全文査読）の募集について
 - ・ 今年度から英文論文も和文論文と同様に全文査読とし，海岸工学論文集に登載される。
 - ・ 投稿数 22，採択数 16
 - ・ 今年度は第一著者が外国籍であることを条件としたが，次年度からはこの条件を撤廃し，和文と同様に扱うこととする。
 - ・ 投稿システムの英語化が不十分な点について現在対応中である。
 - ・ CEJ への影響については今のところ特段の影響はなさそうだが，引き続きモニタリングしていく。
- (6) 海岸工学講演会の活性化
 - ・ 口頭発表のみの企画セッションを新設。投稿数は 8（企画セッション 7，一般 1）
 - ・ 通常論文の質の維持と学際分野の強化
- (7) 通常号掲載分の講演会発表枠
 - ・ 通常号掲載論文の著者に連絡し，発表意思の有無を問い合わせる文書を送付した。
 - ・ 今年度は 1 編の発表希望があり，発表枠を確保することとした。
 - ・ 発表をする場合には，講演負担金 20,000 円を徴収する。
 - ・ 登壇する回数は特集号・通常号・企画セッション合わせて 1 回に制限する（プログラム作成が困難となるため）。
- (8) 来年度の編集・出版形態
 - ・ 査読については今年度と同様の体制で実施する。
 - ・ 企画セッションは継続する。
 - ・ JSTAGE には従来通り BIB ファイルを提出する（XML 化については未定）。
 - ・ 海岸工学論文賞・奨励賞は継続，候補論文は CEJ に推薦する。
- (9) 著者負担金について
 - ・ 今年度の著者負担金は昨年度と同様に 35,000 円
 - ・ 論文集の定価は 5,000 円

4. 第 61 回海岸工学講演会企画セッションについて（岡安小委員長）

- ・ 2014 年 11 月 13 日（木）15:20-17:50
- ・ 会場は第 1 会場
- ・ テーマは「津波防災まちづくりにおける防潮堤の役割」（司会：岡安小委員長）
- ・ 7 件の発表計 60 分のあと，約 80 分のパネルディスカッションを行う。他のセッションと休憩時間を揃えるようにする。

5. 第 62 回海岸工学講演会企画セッションについて（武若委員兼幹事）

- (1) 企画内容

- ・武若委員兼幹事+横木委員兼幹事がオーガナイザーを務める。
- ・テーマは「海岸工学分野における気候変動への対応」
- ・投稿システムの分類項目に「企画セッション・海岸工学分野における気候変動への対応」を加える。
- (2) 今後の企画セッションの構成法について
- ・オーガナイザーは委員会で指名する。
- ・企画セッションでの講演はオーガナイザーによる依頼を基本とし、一般からも公募する。
- ・口頭発表のみの場合は、オーガナイザーの裁量で、アブストラクト審査および講演負担金を免除できる。
- ・通常の全文査読論文として企画セッションに応募した場合は従来通りの厳格な審査を行う。

6. 海岸工学論文賞および海岸工学論文奨励賞の候補論文について（佐々木幹事長）

- ・選考過程について、例年通りの手続きにより審査対象論文を選考し、5名の匿名の審査員による全文査読審査が行われ、第1段、第2段審査結果も考慮して候補論文が選考された旨説明があり、当該選考手続きが了承された。
- ・海岸工学論文賞は8編の審査対象論文から3編が候補として選考された。
- ・奨励賞は5編の審査対象論文から3編が候補として選考された。

7. 海岸工学論文集の将来検討（H27年度以降対応）について（北野主査）

(1) 冊子体の廃止

- ・冊子体を廃止し、代わりにDVD論文集を作成して著者に頒布する。
- ・印刷業者による組版は行わない（pdfの版下原稿を著者が作成する）。
- ・組版をやめても講演会会場経費等の諸経費がかかる上に、別刷収入や業界案内の減収の可能性があり、総費用の縮減にはつながらない可能性が高い。
- ・DVD論文集の頒布により、JSTAGEからのダウンロード省力化や業界案内の維持ができる。
- ・DVD代として著者負担金を1,000円値上げする。また、DVDを別途購入する場合は3,000円とする。
- ・海岸工学論文集データベース用のデータ整理については継続（1編あたり500円の費用）

(2) 原稿体裁等について

- ・原稿のヘッダは全ページについて下線付き論文名で統一する。
- ・著者原稿の体裁の完成度が低いものは組版を採択の条件とする。組版経費は著者負担とする。
- ・土木学会論文集通常号のフォーマットに統一する。著者が土木学会の提供する組版ツールやテンプレートを使用して原稿を作成する。
- ・通常号のフォーマットで現状の分量を確保するため、原稿は全6ページとする。
- ・最終提出物は原稿pdfファイルを基本とする。ただし、MS Wordで原稿作成の場合、Word原稿も提出する。また、原稿を印刷したのも確認のため提出する。図表のファイルは提出不要となる。
- ・品質を維持するには副査による体裁チェックが重要になる（印刷会社による対応は困難）。

(3) DVDの形態について

- ・冊子体にある分類項目による論文索引や著者索引はDVD内のリンクで対応することを検討する。
- ・DVDの表紙・裏表紙・中表紙に企業の広告を掲載する。貴重な収入源であるため最大限に活用する。
- ・DVDのケースについてデザインサンプルが回覧された。

(4) 発刊スケジュールについて

- ・組版，著者校正が不要となるため，発刊までのスケジュールは早くなる．
- ・JSTAGE での早期公開が見込まれる．

8. 第 61 回海岸工学講演会の準備状況について（北野主査）

- ・日程：平成 26 年 11 月 12 日（水）～14 日（金）
- ・会場：ウィンクあいち（名古屋駅前 徒歩 5 分）
- ・見学会 A コース 名古屋港+飛島コンテナ・ターミナルツアー
- ・見学会 B コース 名港トリトン→木曾川下流河川事務所→木曾三川公園→長良川河口堰
- ・懇親会：11 月 13 日(木)，キャッスルプラザ 3F 孔雀の間

9. 第 61 回海岸工学講演会前日シンポジウムについて（武若委員兼幹事，富田副小委員長）

- ・前日シンポジウムの提案 2 件（テーマ 1：武若委員兼幹事・森小委員長，テーマ 2：富田副小委員長）
- ・日時：11 月 11 日（火）18:00-20:00，場所：ウィンクあいち
- テーマ 1：IPCC 第 6 次評価報告書を見据えた海岸工学分野における気候変動の影響評価と適応策の検討
- テーマ 2：巨大南海トラフ地震津波への備え

10. 第 62 回海岸工学講演会の開催（会場など）について（下園幹事）

- ・日程：平成 27 年 11 月 11 日（水）～13 日（金）
- ・会場：タイム 24 ビル（臨海副都心青海）
- ・前日シンポジウム，会場：日本科学未来館を予定
- ・見学会：候補 1 東京港見学・クルーズ，候補 2 港湾空港技術研究所 施設見学
- ・懇親会：11 月 12 日(木)，タイム 24 ビル 11F レストランシーガル

11. 第 63 回海岸工学講演会の開催（会場など）について（青木副委員長）

- ・日程：平成 28 年 11 月 16 日（水）～18 日（金）
- ・会場：大阪大学中之島センター（北区中之島）

12. Coastal Engineering Journal について（渡部小委員長）

- ・CEJ の IF が 1.478 に上昇した．
- ・過去の CEJ Award 受賞論文をホームページに表示した．
- ・Citation Award は過去 5 年間に出版された全論文のうち Web of Science で引用数最多のものを選出する．賞名に CEJ をつけた方が良いとの意見があり，Editorial board で議論して名称を再検討することとなった．
- ・2014 年 12 月出版を予定していた特集号“Extreme Flood Risks”は 2015 年 3 月号に延期する．IF の向上には年末よりも年始に出版する方が有利である．
- ・台風 Haiyan の特集号は 2016 年 3 月出版予定．推薦論文と公募論文の両者を査読する．公募論文のアブストラクト締切は 12 月 19 日，フルペーパー締切は 3 月 31 日となる．

- ・論文の投稿および出版状況について説明があった。
- ・特集号を毎年発刊することを目指すため、年間の号数を増やすことを今後検討する。

13. 研究小委員会等の活動について（広報、沿岸域、津波、波動モデル各小委員長）

- (1) 広報小委員会（川崎副小委員長，代森小委員長）
 - ・Web情報の充実について活動報告があった。アウトリーチについては準備中。
- (2) 地震・津波複合災害の推定手法および対策小委員会（富田副小委員長）
 - ・第61回海岸工学講演会の前日シンポジウムを企画 「巨大南海トラフ地震津波への備え」
 - ・12月15日土木学会トークサロン「津波対策技術のフロンティア」が開催される。
- (3) 波動モデル研究小委員会（柿沼小委員長）
 - ・委員会の活動状況について報告があった。

14. 第50回水工学に関する夏期研修会（Bコース）について（山城委員兼幹事）

- ・平成26年8月25（月）～26日（火）に九州工業大学戸畑キャンパスで開催された。
- ・テーマは「海岸・港湾に関する調査・観測の技術」
- ・参加者数59名（Aコースは142名）であった。
- ・参加者のアンケート結果の紹介があった。
- ・土木学会の会員・非会員で参加費に差をつけるかについて11月の委員会で判断する。
- ・参加者数増に向けた検討が必要。

15. 第51回水工学に関する夏季研修会（佐々木幹事長）

- ・横浜国立大学鈴木崇之准教授に担当をお願いしている。
- ・日程 8月24（月）～25日（火）の2日間
- ・会場：横浜国立大学理工学部講義棟
- ・テーマは 「沿岸域の防災と減災」を予定。講師陣にはこれから依頼する。

16. その他

(1) 減災アセスメント小委員会について（岡安小委員長）

- ・土木学会より「東日本大震災後における津波対策に関する現状認識と今後の課題」の提言が出された。この提言を受けて、海岸工学委員会・計画学研究委員会合同の小委員会が設立される予定
- ・3年間の時限付きで実効的な津波対策に関する学術研究・技術開発や諸制度の導入を学際的、分野横断的に検討する。
- ・岡安・安田・越村・高橋・田島・原田各委員ほか を海岸工学委員会から選出予定

(2) JSCE-PICE ジョイントセミナー（田島副小委員長）

- ・フィリピン土木学会と合同で開催する台風 Haiyan に関するジョイントセミナーは、当初11月にフィリピンの国内学会に合わせて実施する予定であったが、海岸工学講演会と重複したため再度日程調整中である。

(3) 土木学会トークサロン（佐藤委員長）

- ・日時：2014年12月15日（月）18:30-20:00

- ・会場：中央大学後楽園キャンパス 3号館 3階 3300 教室
 - ・「津波対策技術のフロンティア」（コーディネータ佐藤委員長）
 - ・津波小委員会から富田・有川・高橋委員が参加
- (4) 日本集団災害医学会総会の学協会連携企画への参加依頼について（佐々木幹事長）
- ・海岸工学委員会のメーリングリストに情報配信してもよいかとの問い合わせがあり，これを承認した。

次回の海岸工学委員会は，11月12日（火）18:00～

記録(下園)